

日本ジョージ・エリオット協会
第23回全国大会プログラム

日時 2019年12月14日(土) 午前10時30分～午後6時

場所 松蔭大学 厚木森の里キャンパス 3号館 5階

住所 〒243-0124 神奈川県厚木市森の里若宮9の1

電話 046-247-1511 (代) Homepage: www.shoin-u.ac.jp

アクセス 小田急線愛甲石田駅下車 神奈川中央交通バスで約10分(詳細は p.4)

会場 3503 教室

会員控え室 3502 教室

開催校委員 松蔭大学教授 阿部美恵

受付開始 10:00

場所: 会場入り口前

総合司会

白百合女子大学非常勤講師 矢野奈々

開会の辞・開催校代表挨拶 10:30～10:35 松蔭大学コミュニケーション
文化学部長 石上七鞆

研究発表 10:35～11:50

司会: 岡山大学名誉教授 福永信哲

George Eliot 2019: International Bicentenary Conference の
報告とこれからのエリオット研究

慶應義塾大学教授 永井容子

司会: 元川村学園女子大学教授 田中淑子
ジョージ・エリオットと<一人称語り>——「エイモス・バー
トン師の悲運」を中心に

神戸市外国語大学教授 新野緑

休憩・昼食 11:50～13:05 3502 教室

合同役員会 11:55～13:00 3903 室 司会: 元帝京大学教授 会田瑞枝

会長挨拶 13:05～13:10 岡山大学名誉教授 福永信哲

総 会 13:10～13:30 司会：元日本大学非常勤講師 小野ゆき子

シンポジウム 13:40～16:40

題目：ジョージ・エリオットと旅——“Recollections”を読む

“The Lifted Veil”とジョージ・エリオットの旅

講師：東京家政大学教授 谷田恵司

“Recollections of Italy 1860”と *Middlemarch* (19～22 章)

司会・講師：元甲子園大学教授 冨田成子

イルフラクームでの体験と博物学

講師：日本大学教授 閑田朋子

イタリア——ジョージ・エリオットのグランド・ツアー

講師：日本大学教授 田村真奈美

特別講演 16:45～17:45

司会：兵庫教育大学教授 大嶋浩

演題：『ダニエル・デロンダ』を超えて

講師：中央大学名誉教授 深澤俊

閉会の辞 17:55～18:00 元川村学園女子大学教授 田中淑子

懇親会 18:10～20:00 会 場：ティアラホール（3号館9階3904室）

会 費：5,000円

司会：慶應義塾大学教授 永井容子

日本ジョージ・エリオット協会

(The George Eliot Fellowship of Japan)

603-8143 京都府京都市北区小山上総町

大谷大学 村瀬順子研究室内

TEL：090-6235-0781

E-mail: georgeeliot.japan@gmail.com

Homepage: <http://www.g-eliot.jp/>

<研究発表要旨>

George Eliot 2019: An International Bicentenary Conference の 報告とこれからのエリオット研究

慶應義塾大学教授 永井容子

ジョージ・エリオットの生誕 200 年を記念して国際大会 George Eliot 2019: An International Bicentenary Conference (於 University of Leicester, College Court) が、2019 年 7 月 17 日～19 日の三日間開催された。世界中から 142 名のエリオット研究者が一堂に会する盛大なイベントとなったが、本協会からも 9 名の会員が発表し、総勢 15 名の日本人が大会に参加した。大会全体の様子をご報告させていただき、発表内容から読み取る最近の研究動向、更にはこれからのエリオット研究についてフロアを交えて考えたい。

ジョージ・エリオットと<一人称語り>

——「エイモス・バートン師の悲運」を中心に

神戸市外国語大学教授 新野緑

エリオットの一人称語りは、多くの批評家の議論を誘ってきた。物語の主人公がその人生を振り返って語る通常の一人称語りはほとんど取らない代わりに、三人称語りの作品には、同時代の作家とは比較にならないほど頻繁に一人称の語り手が介入して、作中の人物や出来事にコメントを加える。こうした語りの形態は、構築した物語のリアリティを損なうとしてヘンリー・ジェイムズをはじめとする後の世代の作家や批評家の不評を買い、彼女を擁護する場合もその一人称語りを、伝統的な intrusive author、つまり全知の作家の介入と見る点では変わりがない。しかし、作家を名乗る語り手が自身の知識や認識の限界を明らかにし、登場人物と同様の身体性を備えた存在であることをことごとに主張する語りは、本当に従来のような「全知の」作家の介入なのだろうか。一人称語りの介入がもっとも多用されている処女作「エイモス・バートン師の悲運」(1856)を中心に、エリオット独自の流動性を孕んだ<一人称語り>の特質を論じ、そうした語りの形態が、彼女のモダニスト的世界観や人間観の表象につながることを明らかにしたい。

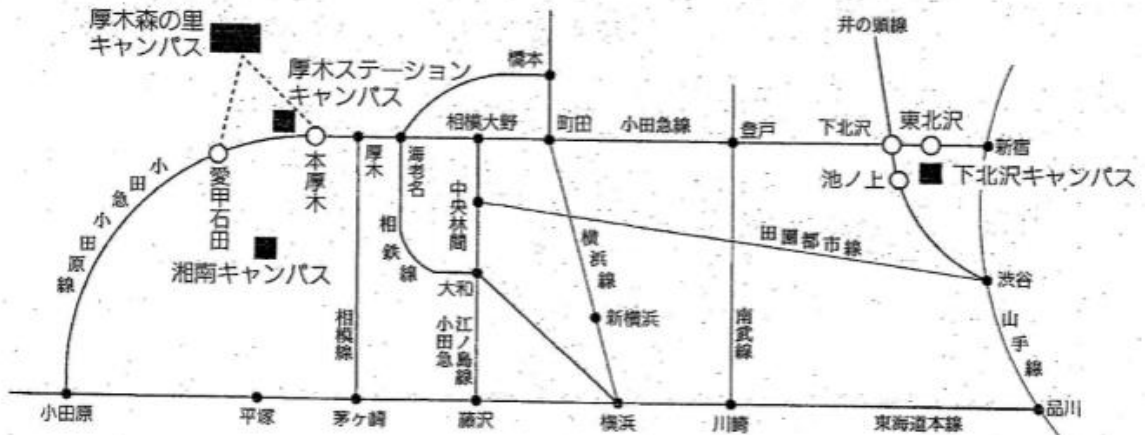
アクセス 関西方面：新幹線で新横浜下車、横浜線・小田急小田原線で愛甲石田駅下車
 (新横浜駅から約 50 分)

関東方面：新宿から小田急ロマンスカーで本厚木まで約 48 分、乗り換えて次の駅が愛甲石田駅

宿泊 【ホテル】レンブラントホテル (本厚木駅から徒歩 3 分)、小田急ステーションホテル、厚木シティホテルなど駅周辺にいくつかホテルがあります。

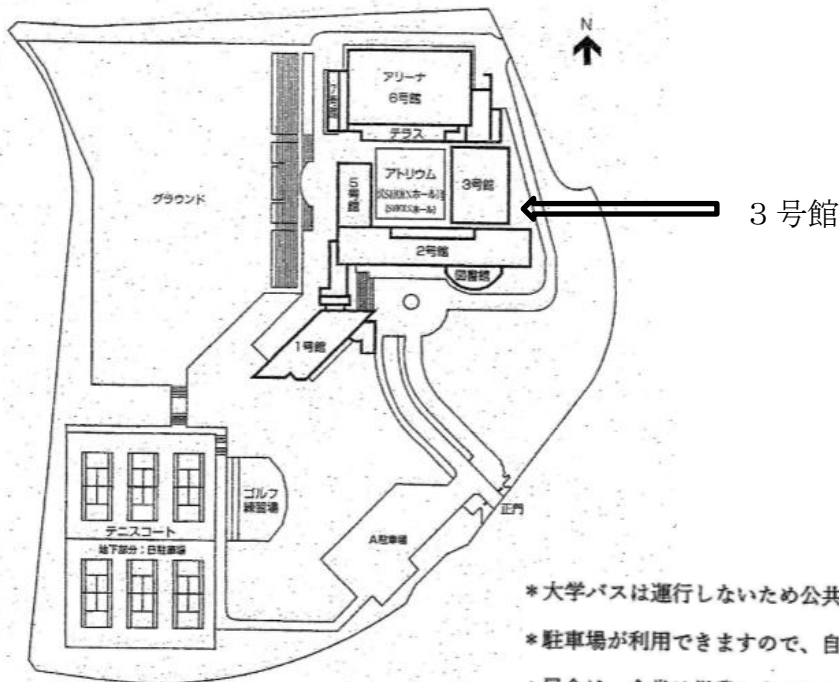
【旅館】大学からタクシーで七沢温泉郷、愛甲石田駅から電車で 10 分の鶴巻温泉、電車で約 50 分の箱根湯本などがあります。

大学への交通機関



- 小田急線・愛甲石田駅下車**
- 北口バスターミナル4番線から約10分
 - 愛18** 松蔭大学行→終点下車
 - 愛17** 森の里行→通信研究所前下車
 - 愛19** **愛21** 日産先進技術開発センター行→通信研究所前下車

学内案内図



- * 大学バスは運行しないため公共交通機関をご利用ください。
- * 駐車場が利用できますので、自家用車での来場も可能です。
- * 昼食は、食堂は営業しませんので、各自ご持参ください。